

防災実践に子供たちが主体的に取り組みました

7月に行われた「防災熟議」を基に、6年生が主体となつて計画・準備を進めてきた「防災実践」が13日(土) 学校運営協議会、地区協議会、桜山げんきかい、すこやか食堂、PTA、そして地元消防団などの支援を受けて実施されました。

“習うより慣れろ”の言葉どおり、全校児童や大人の方々も一緒になつて、防災体験ができました。

毎年、少しずつバージョンアップしながら、桜山の良き伝統事業の一つとなっています。

参加者の感想から

○子供たちの頑張りが成果として表れた実践でした。

○体験できたことが良かったです。訓練のように言われたことをするのはではなく、子供たちが主体で考えていたのが素晴らしいと思いました。

○6年生の発想・説明を聞いて、どの実践も勉強になりました。



～今回の主な記事～

- ◆習うより慣れろ
本物体験からの学び
防災実践に子供たちが主体的に取り組みました
- ◆3、4年生は見学旅行で大発見
- ◆5、6年生は荒尾干潟でまじやく釣り

3、4年生は見学旅行で大発見

今月11日には、3、4年生が見学旅行に行ってきました。最初は、南関町の「エコアくまもと」で環境について学び、その後は山都町まで足を延ばし、江戸時代に人力で作られたとは思えない大きな石橋「通潤橋」を見学してきました。いずれも写真や動画ではわからない、本物のすごさを肌で感じ、昔の人の知恵や環境を守る技術を大発見してきました。



5、6年生は荒尾干潟でまじやく釣り

残暑厳しい中ではありますが、本日荒尾漁港の干潟にて、5、6年生が“まじやく釣り”体験をしました。

指先の感覚を研ぎ澄まし、干潟からまじやくを釣り上げる瞬間を楽しみました。いつまでも故郷が誇る世界有数の干潟を残していきたいという思いをもったことでしょう。

